



第 43 回 例会 報告 (5月30日)

【 出 席 報 告 】

・会員数 52名
 ・当日出席率 68.08%
 ・出席数 34名
 ・欠席数 18名
 ・前々回修正出席率 85.42%

<欠席会員>青野(淳)、青野(賢)、原、檜垣(賢)、檜垣(俊)、檜垣(直)、檜垣(巧)、平田、加賀、眞鍋、大澤、竹田、藤堂
 [免除会員] 青野、原田、飯、松本、八木
 <5/9欠席補填>(4/30今治南)青野(淳)、檜垣(賢)、檜垣(俊)、平尾、小堀、桑森、松木、眞鍋、光藤、大澤、渡邊、吉田
 (5/1東予)村上(裕)

◇**会長報告**・桑森会員のお嬢様のご結婚しました。

◇**幹事報告**・5月30日(木)は職場訪問例会です。訪問先は四国ガス様です。12時30分例会開催。敷地内と大雄寺に駐車所場をご用意しております。

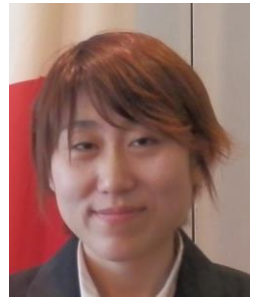
・6月27日(木)18時30分より、今治国際ホテル松泉亭にて最終夜間例会を開催します。

◇**親睦活動委員会・入会記念スピーチ**・松木徹夫会員(在籍21年)：入会後最初の卓話は音楽について。録音したテープは機器の故障で再生できませんでしたが、それでも当時の怖そうな先輩方から温かい声を掛けていただきました。周年行事で国歌やロータリーソングをピアノ伴奏したのもいい思い出です。▼渡邊道信会員(在籍21年)：入会当時は8人掛けのテーブルに9人が座る状態。3~4回に1回は着席できず、例会終了後に食事することもありました。全体の空気もピリピリしていましたが、ずいぶん和やかな雰囲気になったものです。

外部卓話

◆**愛媛新聞社 千葉美保子氏『ロータリー留学生としての留学生活』**：関西外国語大学2年生時に履修していた社会学に興味を持ったこと、その担当助教授が海外の大学院出身だったことから、卒業後には自分も海外で修士課程を学びたいと思うようになった。しかしそれには最低でも400万円もの費用が必要。さて、どうしたものか。▼RCとロータリー財団を知ったきっかけは、3回生の夏から4回生の春まで米国テネシー州のローズ大学へ交換留学した際、別の大学へ留学していた友人から「留学先にロータリー財団の奨学生がいる」という話を聞いたこと。それで大学を卒業した春、実家がある新居浜のRCから書類を受け取り、夏に試験を受けた。社会人経験や研究経験がなくてもチャレンジできる、ということも魅力だった。▼結果、留学ブームで受験者がひしめく中、なんとか1学年度国際親善奨学生に選ばれることができた。留学先は英国ウエスト・ミッドランズ州コヴェントリーにあるウォリック大学、社会学部比較労働学の修士課程。ロンドン五輪の際にサッカー女子「なでしこJAPAN」が1次リーグを戦った町で、そのときの練習場がウォリック大だった。▼住まいは英国伝統の集合住宅Flat(フラット)。出身国もばらばらの8人が寮生活を送った。社会学部ではプレゼンテーション後に提出する25ページのエッセイが合格してはじめて修士論文の作成に入れる、という授業形態。必然的に図書館にこもることも多かった。▼そんな時、気分転換になったのがRC例会。ホストクラブのアルセスターでは卓話をしないときも招いてくれることが多かった。ホストファミリーのお子さまは独立していたので、週末はホームステイしたり、観光地を案内してもらったり、果ては卒業式に出席してくれたりとおの娘のように可愛がってもらったのもありがたかった。▼当時、英国1060地区には自分を含め7名の日本人と、米国・独国から1人ずつの計9名のロータリー奨学生がいた。しかし最初のオリエンテーションや地区大会などを除き、全員が一堂に会することは少ない。まして他地区の奨学生と触れ合うことなどまれなので、日本らしさを知ってもらいたいという気持ちから、浴衣姿で参加するようにしていた。▼自分自身、先の交換留学のほかにも米国ロサンゼルス郊外のベイカーズフィールドでホームステイした経験もあったが、英国はまったくの初めて。語学の壁を感じつつも、緊張や不安の中で課題をクリアできたこと、今も連絡を取り合っている奨学生仲間の存在は宝物である。安心して学業に集中できる環境の中で、有意義な1年を過ごさせていただいたことに感謝したい。

<ゲスト>愛媛新聞 千葉美保子様、(株)LPH ライフコンサルタント 代表取締役社長 岡本康利様



次 回 例 会 (5月30日)

【 職 場 訪 問 例 会 】

日 時： 2013年5月30日(木) 12:30~13:30

場 所： 四国ガス株式会社(共栄町5-1-3 TEL 32-5056)

敷地内、大雄寺に駐車場をご用意しております。

[笹お弁当・お茶]